

誰でも気軽に出来るユニバーサルスポーツ

今話題の

ボッチャ



ボッチャ講習会のお知らせ

ボッチャは、ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障害者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目です。

ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのカラーボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。

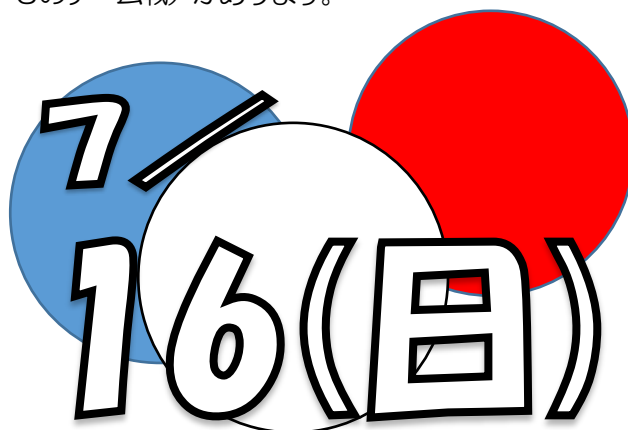
障害によりボールを投げるができなくても、勾配具（ランプス）を使い、自分の意思を介助者に伝えることができれば参加できます。

競技は男女の区別なくBC1～BC4のクラスに別れて行われ、個人戦と団体戦（2対2のペア戦と3対3のチーム戦）があります。

場所：高知ボッチャスタジアム

時間：10時～16時

対象：どなたでも可・参加費無料



申し込み・問い合わせ

高知ボッチャ普及活動クラブ

- TEL:088-888-XXXX
- FAX:088-888-XXXX
- メール:info@kochi_boccia.XXX

10:00 ~ 10:30	受付
10:30 ~ 12:00	ボッチャ説明・相談受付
12:00 ~ 13:00	休憩
13:00 ~ 13:30	レクリエーションボッチャ
13:40 ~ 14:10	デモンストレーション (競技ボッチャ)
14:10 ~ 14:30	休憩(チーム分け)
14:30 ~ 16:00	試合体験

●ボッチャとは？

歴史

元になったボッチャはヨーロッパが発祥とされ、ペタンクやローン・ボウリングから発展したとされるが、類似のゲームは世界各地に存在し、はっきりしない。

1997年に日本ボッチャ協会が設立され、国際ルールを紹介、全国的に広まっていくこととなった。

2014年4月1日、一般社団法人日本ユニバーサルボッチャ連盟が設立された。日本代表チームは「火ノ玉 JAPAN」の愛称で呼ばれ、2016年のリオデジャネイロパラリンピックで混合団体（BC1、2）は銀メダルを獲得している。

ルール

ゲームの目的は、赤または青（コイントスでどちらを選ぶか決める。赤ボールチームが先攻）のボールを投げ、ジャック（jack）ボールと呼ばれる白い的球（まどたま）にどれだけ近づけられるかを競います。

■1対1で行う個人戦、2対2で行うペア、3対3で行う団体戦があり、いずれも1チーム6個のボール（赤または青）をジャックボール（白）に近づけるように投げます。

■投げる順番

①赤チームの左端の人がジャックボール（白）を投げます。（2ゲーム目は青チームの左端の人が投げて、後は同じ要領。）

②同じ人が赤ボールを投げます。

③青チームの誰かが青ボールを投げます。

④これ以降はジャックボールに遠いほうのチームの誰かが投げます。

⑤一方のチームの投げるボールが無くなれば、もう一方のチームが連続して投げます。

- ・ジャックボールや他のボールに当たっても、そのまま続けます。
- ・ジャックボールがコートの外に出たとき、ジャックボールはクロスの位置に戻ってきます。



ボール(距離の測定)

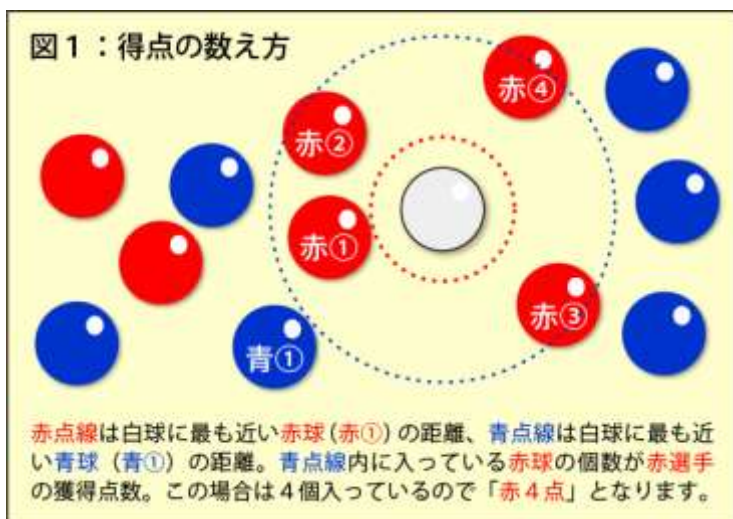
■得点は

①双方のチームの最もジャックボールに近いボールを比較し、どちらが近いかを判定する。

②ジャックボールに遠かった方のチームのジャックボールに一番近いボールとジャックボールを結んだ線を半径とし、ジャックボールを中心とした円を描く。

③その円の中に何個赤ボールがあるかを数えます。その数が得点となります。

④①がまったく等距離のときのみ1対1となります。



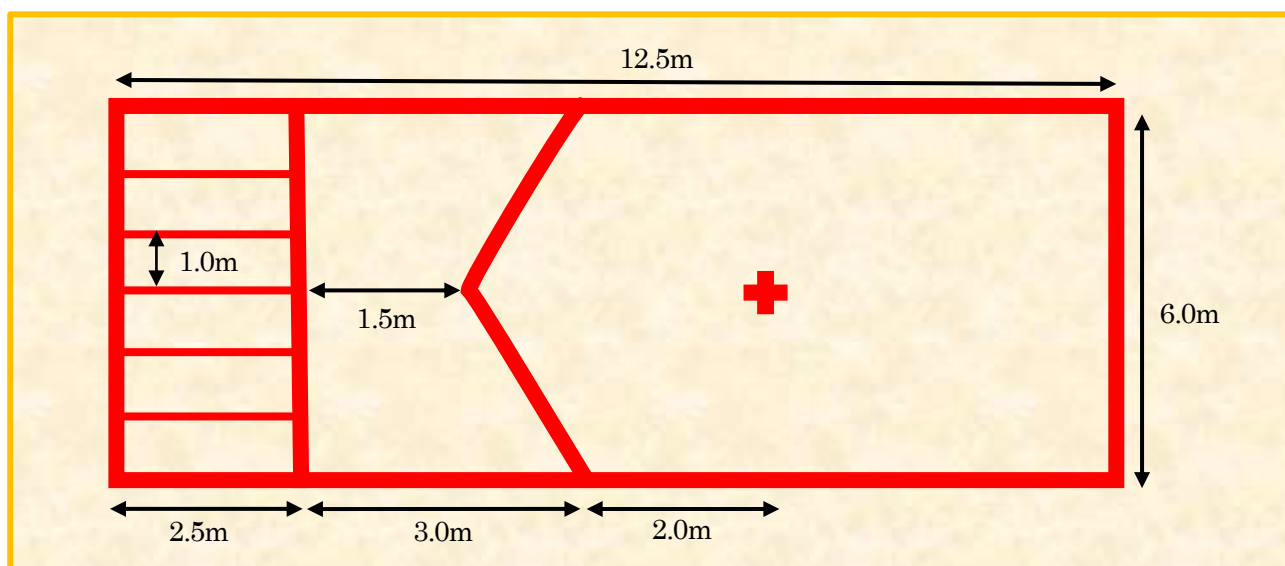
■個人戦とペア戦は4ゲーム、団体戦は6ゲーム行い合計得点を競います。

■ボールを投げられない人は補助具を使うことができ、また介助を受けることもできます。

■介助者はゲーム中コート内を見てはいけません。

コート

長さ 12.5m、幅 6m のコートを用いてゲームの始めに的球を投げる。的球は、コートに V 字型に引かれたジャックボールラインを越えなければならず、両サイドが交互に投球し、的球がコート内の有効エリアに収まるまで繰り返します。



各ラウンドの終了、すなわちエンドの度に審判は的球と投げられたボールとの間の距離を測定し、そのエンドで負けた側の最も的球に近いボールよりもさらに的球に近いボールに各 1 点が与えられる。ゲーム終了後に高得点を上げたチームないしは競技者が勝ちとなる。

用具

●ボール

使われるボールは、中は硬質の素材だが表面は柔らかな素材で包まれており、表面が少々つまめるほど柔らかで、あまり転がらず弾まない。



●補助具

障害によりボールを直接投げることができなくても、ランプ (勾配具) やヘッドポイントなどの補助具を用いての競技参加も可能。また、それらが困難な場合であっても、意思伝達が可能であれば介助者による補助具や車椅子移動の補助は許されているため、それにより狙いをつけての投球が可能であれば競技への参加ができます。

・ランプ

ランプ (勾配具) とは、樋のようにボールを一方向に転がすことのできるもので作成されたスロープのこと。ボールを勾配のある場所に置けば、重力によって勝手に転がってゆくことを利用する、ボールを打ち出すための装置。選手の膝の上で使用するものや、自立式のものなど、様々なタイプのランプが存在する。スロープの方向を変えることでボールを打ち出す方向を変えられる。また、スロープ上に置くボールの初期位置 (地面からの高さ) を変えれば、ランプから転がり出た時のボールの速度が変わるので、ボールを転がす距離の調整も可能である。

・ヘッドポイント

ヘッドポイントとは、ヘッドバンドにランプ上のボールを抑える棒がついた器具。脳性麻痺であっても、首から上は比較的自由に動かせる場合があり、そのためにこれが使用される。



上からみた競技風景 (ヘッドポイントを頭に付けた競技者の前にはランプ (勾配具) があり、介助者が向かい合うように立っている。